５年間の総括と今後への展開

平成24年度弘前大学FDシンポジウム

平成24年11月3日（土）13:50-14:20

田中正弘　２１世紀教育センター

弘前大学
Hirosaki University

目次

- ５年間の総括
  - 導入の経緯
  - ダルハウジー大学のワークショップ
  - 「教育者総覧」（弘前大学版ティーチング・ポートフォリオ）
- 今後への展開（他大学の事例を参考に）
  - アカデミック・ポートフォリオ（帝京大学）
  - 初任者研修での活用（立命館大学）
  - 教育評価の問題

５年間の総括

導入の経緯

- 弘前大学は，2008年度に，文科省の特別経費「ティーチング・ポートフォリオを活用したFD活動」を受託した。それから5年間，ティーチング・ポートフォリオ（TP）の学内での効果的かつ効率的な普及に努めてきた（神田 2012）。
- ただし，この経費の受託に繋がる試みは，2005年度には既に始まっていた。
- その始点とは，海外の先進的な教育を実践するべきだという執行部の強い信念の基で，学術国際振興基金B-5を活用し，アメリカとカナダの6大学における授業改善の取組を，2005年9月に調査したことである（土持 2006）。
- この調査で，カナダのダルハウジー大学に，ティーチング・ポートフォリオ（ドーシィエー）という教育改善のツールがあることが明らかとなった。

TPの導入計画

- この調査結果を踏まえた弘前大学の行動は素早かった。
  - 弘前大学では，「第1期中期目標・中期計画」の教育成果などに関わる目標達成に向けて，従来の『授業改善計画書』に改良を加えた。そして，TPの導入と活用を2006年度に検討することとなった（木村 2012）。
- 2006年度に，教育・学生委員会（現在の教育委員会）の中に，TPの研究プロジェクト・チームを立ち上げた。
- 教員を海外に派遣して，先進事例の調査を継続的に実施するとともに，ダルハウジー大学の（TPの作成を含む）ワークショップに参加させた。
- 2007年度の業務運営の計画で，「教育者総覧」（弘前大学版TP）の提出を全ての教員に求めた（木村 2012）。

ダルハウジー大学のワークショップ（1）

- 2006年5月29日～6月2日の5日間，弘前大学の教員4名が，カナダのダルハウジー大学でワークショップに参加した。
  - このワークショップにおいて，参加教員はTPの意義を知り，かつ，その作成過程を体験することができた。
- ダルハウジー大学のTPは，10頁（A4）前後で構成される。
- このTPの根幹をなす項目が，「教育哲学」（Teaching Philosophy）である。
  - 教育哲学とは，「教育効果の高い授業や学習を行うための系統的かつ論理的な根拠であると定義されている」（鬼島ほか 2007：2）
  - 言い換えると，教育哲学とは，自らの教育実績を踏まえて，将来の教育目標を見据えつつ，各教員の在り方を説明する事項である。このため，担当する科目が，カリキュラムの中でどのような位置づけにあるのか，および，その学問分野においてどのような重要性があるのかを，明確にできなければならない。

ダルハウジー大学のワークショップ（2）

- ワークショップ初日は，午前中に，TPの意義や構成に関する説明を受け，そして午後には，TPの作成に取りかかる。
- ２日目は，TP作成の合間に，ファシリテーターとの相談などを１時間程度行う。
- 3日目は，午前中までTPの作成を継続し，午後は採用・昇進・テニュアに関わる教育（TPの）評価について討議が行われる。
  - ペアワークでお互いのTPについて意見交換を行う。

    （TPは専門外の人にも理解できる平易な表現で記載することが不可欠なので，この意見交換は重要である。）
- ４～５日目は，ファシリテーターと相談しながら，TPの完成を目指す。
  - ５日目の午後に，参加者全員に研修終了証明書が授与される。

ダルハウジー大学のワークショップ（3）

- 参加風景

ダルハウジー大学のワークショップ（4）

- 2007年度にも，弘前大学の教員4名がダルハウジー大学のワークショップに参加した。
  - 2年間で計8名の教員が参加した（2008年度以降は，残念ながら，ダルハウジー大学の都合で参加は断念した）。
- この取組は，大学評価・学位授与機構（編）（2008）『大学評価文化の展開　評価の戦略的活用を目指して』で，下記のように紹介されている。
  - 教育業績記録の本格的導入をめざしている機関としては，弘前大学が教員をカナダの大学の業績記録ワークショップに派遣するなど積極的な活動を行っています（38頁）。

ダルハウジー大学のTPの構成

- Teaching Portfolio (Dossier)
  - 1. Summary of Teaching Responsibilities
  - 2. Reflective Statement on Teaching Philosophy, Practices, and Goals
  - 3. Course Development and Modification
  - 4. Development of Teaching Materials
  - 5. Products of Good Teaching
  - 6. Description of Steps Taken to Evaluate and Improve Your Teaching
  - 7. Presentations, Research, and Publications on Teaching
  - 8. Administrative and Committee Work Related to Teaching
  - 9. Information from Students
  - 10. Information from Colleagues
  - 11. Information from Other Sources

TP作成の意義

- ティーチング・ポートフォリオ（TP）は，授業実践記録に，証拠資料の分析に基づく各教員の「自己省察」（reflection）を記載したものである。
- TPを作成する意義は，下記の三つがある（土持 2007：ii）。
  1. 自らの授業を記録し整理することにより，授業の改善と向上に役立てること。
  2. 教員の教育活動がより正当に評価され，その努力が報われるための証拠づけとなること。
  3. 個々の教員の「優れた授業」「巧みな工夫」「熱心な指導」が共有の財産となり，他の教員に還元されること。

弘前大学の判断

- 北米では，教員の採用や昇進を判断する教育評価のツールとして，TPが活用されている。
- このため，北米のTPでは，詳細な資料・データを掲示（成果をアピール）する必要があり，10頁（＋補足資料）にわたる分量となっている。
- 「しかし，先行例の欧米の大学と我が国の大学においては，大学をめぐる文化的歴史的差異もあることから，にわかに同じ方法の導入には慎重さが必要である」（神田 2012：5）。
- なぜなら，「我が国の大学の風土の中では，教員の採用や昇進の際，まだ，それほど詳しい教育関連データは要求されていないのが実態」（神田 2012：5）だからである。
- そこで，簡易版のTP（教育者総覧）を考案することにした。

「教育者総覧」(弘前大学版TP)

- 先述したように，2007年度業務運営計画で，「教育者総覧」(弘前大学版TP)の提出を全教員に求めた。この時の教育者総覧は下記の3項目で構成されていた。
  - ① 「授業に臨む姿勢」
  - ② 「教育活動自己評価」
  - ③ 「授業改善のための研修活動等」
- 2008年度には，授業評価アンケートの自由記述欄に対する教員側の見解を記入できる項目を追加してほしい等の要望を加味して，さらに3項目が追加された(弘大独自の発展)。
  - ④ 「主要担当授業科目の概要と具体的な達成目標」
  - ⑤ 「具体的な達成目標に対する達成度」
  - ⑥ 「学生からの要望への対応」

教育者総覧執筆率（平成24年10月30日）

	人文	教育	医学	保健	理工	農生	病院	共同施設	合計	※病院を含めない場合
対象教員	84名	95名	175名	97名	92名	70名	126名	40名	**773名**	※651名
入力教員	78名	89名	123名	93名	84名	66名	54名	35名	**622名**	※568名
入力率	92.9%	93.7%	71.1%	95.9%	91.3%	94.3%	44.3%	87.5%	**80.5%**	※87.3%

弘前大学
Hirosaki University

シラバスへのリンク

- 「教育者総覧」の7番目の項目として，⑦「HPシラバス」という項目が2010年度に加えられた。
  - 各教員の教育者総覧と担当科目のシラバスを直結する試みは，学生が科目を選択する際の一つの基準として，担当教員の教育哲学等を参照することを期待するものである。
- その結果，弘前大学の「教員が学生に対してどのような姿勢で教育をしようとし，どのように授業内容の向上と改善に努めようとしているかが，明確になっていくものと考える」（神田2012：6）。

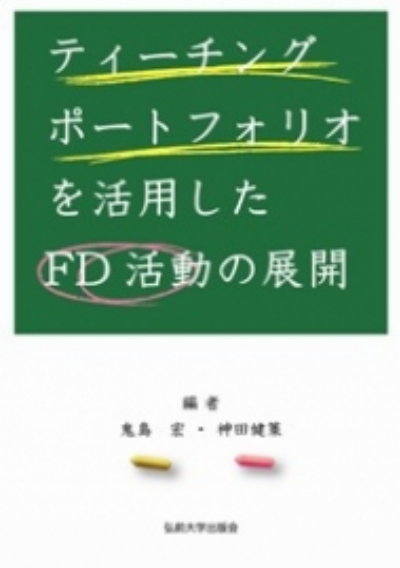
取組の紹介

- 文科省の報告書「国立大学法人化後の現状と課題について（中間まとめ）」（平成22年7月15日）において，教育者総覧の取組が下記のように紹介されている。
  - 例えば弘前大学においては，全ての学部生に対して授業評価アンケートを実施し，集計結果を全教員に配布し，全教員の教育改善に関する具体的な取組を「教育者総覧」として公表している（7頁）。
- TPへの取組において，弘前大学は，佐賀大学等と並び，先駆的といえる（神田 2012）。特に実施率において，国立大学の中でもトップを争っている。
- 教育者総覧の執筆率100%達成を引き続き目指すとともに，教育者総覧の今後への展開（発展の方向性や有効な活用方法の探求）が必要である。

弘前大学
Hirosaki University

成果の公表（書籍の出版）

- 「ティーチング・ポートフォリオを活用したFD活動の展開」
- 鬼島　宏・神田健策編
- 弘前大学出版会
- A5判・205頁・並製
- 定価　1,575円（本体1,500円）
- ISBN 978-4-902774-88-7
- 発行　2012年3月28日
- 品切れ・重版未定



今後への展開
（他大学の事例より）

弘前大学
Hirosaki University

二つの展開方策

- 「教育者総覧」の発展の方向性や有効な活用方法の探求が，今後の課題である。
- 他大学の事例を参考にすると，二つの展開方策が見えてくる。
  - 発展の方向性としては，①教育活動のみでなく，②研究活動や③管理運営業務（社会貢献等を含む）の三つの役割を統合した，総合的教員業績書（アカデミック・ポートフォリオ）への進化が考えられる。
  - 有効な活用方法としては，初任者研修プログラム等の修了判定の材料として，本格版ティーチング・ポートフォリオ（A4で約10頁）の提出を義務づけることが考えられる。

アカデミック・ポートフォリオ

- アカデミック・ポートフォリオの教育活動の部分では，「素人」（専門分野外の人）でも分かるように，専門用語の羅列を避けつつ，自らの教育内容がカリキュラムの中でどのように重要であるのかを簡潔明瞭に書くことが求められる。
  - 現状の教育者総覧では不十分
- 研究活動の部分では，自らの研究がその学問分野においてなぜ重要であるのかを，素人でも分かるように説明できなければならない。
  - 現状の研究者総覧では不十分
- 管理運営業務（社会貢献）の部分では，自らの業務（貢献）が大学や社会にとってなぜ重要であるのかを，平易に記述する必要がある。
  - 現状の教員業績評価では不十分

初任者研修プログラム

- 新しく赴任した（大学での教育経験が5年に満たない）教員を対象に，初任者研修プログラムを提供する。
  - 人的制約から大学単体では総合的なプログラムを提供できない場合は，他大学（例えば，立命館大学や東北大学等）のオンライン・プログラムを活用させてもらうことも検討するべき。
- 新任教員は，初任者研修プログラムの中から必要と思われる科目を自由に選択し自学自習する。
  - 所属する学科の先輩教員にメンターになってもらう。
- 着任後2年以内に本格版ティーチング（アカデミック）・ポートフォリオを学科長に提出し，学科内の評価委員（同僚教員）の審査を受ける。
- 審査に合格すれば，プログラムの修了証明書を発行する。

日本の教育評価の問題

- 日本の大学における教育評価は，学生による授業評価アンケートに偏りすぎ（または過大評価し）ている。
  - 授業評価アンケートの結果には，若手教員の評価が高くなる傾向や，専門基礎教育科目（特に理数系）の評価が低くなる傾向など，公平性に欠けるところがある。
- このため，「教育評価は，複数の信頼あるデータをもとに客観的に計る必要がある」（土持 2012：9）。
  - その一つに，教員による自己評価，つまり，TP（教育者総覧）がある。

ご清聴ありがとうございました。

弘前大学
Hirosaki University

参考文献

- 大学評価・学位授与機構（編）（2008）『大学評価文化の展開　評価の戦略的活用を目指して』ぎょうせい。
- 神田健策（2012）「弘前大学における教育改革の現状と課題」，鬼島宏・神田健策（編）『ティーチング・ポートフォリオを活用したFD活動の展開』弘前大学出版会，3-6頁。
- 鬼島宏・木村宜美・Victor L. Carpenter・土持ゲーリー法一（2007）「Teaching Portfolio（ティーチング・ポートフォリオ）と自己評価報告書（教育活動）との対比」『21世紀教育フォーラム』第2巻，1-15頁。
- 木村宜美（2012）「Workshop at Dalhousie University」，鬼島宏・神田健策（編）『ティーチング・ポートフォリオを活用したFD活動の展開』弘前大学出版会，19-35頁。
- 土持ゲーリー法一（2006）「ティーチング・ポートフォリオの積極的導入　自己反省から授業改善へ」『21世紀教育フォーラム』第1巻，1-12頁。
- 土持ゲーリー法一（2007）『ティーチング・ポートフォリオ　授業改善の秘訣』東信堂。
- 土持ゲーリー法一（2012）「ティーチング・ポートフォリオの積極的導入」，鬼島宏・神田健策（編）『ティーチング・ポートフォリオを活用したFD活動の展開』弘前大学出版会，7-18頁。